

●TAC 電験講座 LINE フォロー過去配信コンテンツ

過去配信した LINE フォローコンテンツです。ご覧になっていない方はぜひご覧ください。

【コンテンツ】 [次ページ以降に記事があります](#)

1.講義の復習方法のお話し（9 月配信）

- ①石田講師より（4 科目完全合格コース／要点速修コース／各単科向け）
- ②入江講師より（演習コース）

2.実力テストの復習方法について（11 月配信）

- ①石田講師より（4 科目完全合格コース／各単科向け）
- ②入江講師より（要点速修・演習コース向け）

3.年末年始の過ごし方（12 月配信）

- ①石田講師より（4 科目完全合格コース／要点速修コース／各単科向け）
- ②入江講師より（演習コース／各単科向け）

【ご参考】

●TAC 電気チャンネル

電験のセミナーや過去問解説、電気工事士の紹介しています。ぜひチャンネル登録をお願いします

<https://www.youtube.com/channel/UCQVgqnX0kl96JWSXRYxICNw>



●弱点克服に！オプション講座のご紹介

ご自分の弱点科目や項目を補うコースから直前まとめまで！ぜひご利用ください

https://www.tac-school.co.jp/kouza_denken/denken_option.html

https://www.tac-school.co.jp/kouza_denken/denken_tyokuzenyosou.html

●電験三種 石田講師より(新宿校／4科目完全合格コース／要点速修コース収録担当)

みなさん、こんにちは。TAC 電験講座講師の石田です。

今回は、4科目完全合格コース（又は単科生）／要点速修コース（又は単科生）の方向けに、講義の復習方法などについてお話したいと思います。

初めて電験（電気）について学習を始めると、ほとんどの方（過去の私含め）がCH01の直流回路でなんとなくいけそうな感覚をつかみ、CH02の静電気、CH03の電磁力でボコボコにやられます。

勉強にはどうしても順番や段階がありますが、ここで気を付けたいのは、初めに出てくる内容は基礎・基本であって、簡単だから先にやるわけではないということです。

CH02 静電気、CH03 電磁力は、とにかく新しく出てくる考え方やコトバ(量記号や単位)が多いので、情報量が許容量を超えてパンクしてしまいます。

なのでまずは、

①新出事項を知る

②教科書を読み返したり、教科書の基本例題・ミニテスト・トレーニングなどの易しい問題を解いて慣れる

という流れで進めて、情報を整理していくことが大切です。特に CH02 静電気は、本試験の直前でも、答えきれないほど質問がくる内容です。最初からすべてを理解する必要はありません。

内容に慣れてきたら、

③問題集や過去問を使って理解を深める

と、『知る→慣れる→理解する』という形で勉強するのが電験では一般的です。

どうしても章と章や、科目と科目などで、内容が切り替わったタイミングはしんどくなります。慣れてしまえば実はなんてことないものも多かったりするので、最初は肩の力を抜いて、継続することを意識してください。

また、受験経験者の方など含め、慣れてきたら②と③の往復で『問題を解く→教科書を読み返す』の反復で学習していく形になります。

どの資格試験もそうですが、モチベーション維持は想像以上に難しく、試験当日まで勉強を続けられる人はあまり多くありません。資格試験は、受けるも受けないも自分の意志次第です。電験三種の受験率はあまり高くなく、数字で見るとよりも会場の方がより空席具合を感じることができると思います。

初めからすべてを理解しようとしたり、一日何時間勉強する（何問解く）のような学習法は、後々しんどくなってくることがあります。今の時期はあまり気負い過ぎず、無理なく続ける形で電験と付き合ってもらえたらと思います。

以上になります。

それでは本試験に向けて、がんばってください。

●電験三種 入江講師より(梅田校／演習コース収録担当)

みなさん、こんにちは。TAC 電験講座講師の入江です。

今回は、演習コース（又は単科生）の方向けに、これからの学習方針や講義の復習方法についてお話したいと思います。

まず、これから本試験まで、どのように学習をするかについてですが、基本的にどの科目も合格への近道は無く、地道に「原理を理解し、使いこなす」だけです。

また、出題問題がどんなに難しい年であっても、攻略法は出題された全問題の中にある基本問題をミス無く確実に解き、60 点分確実に得点することが重要です。

受験後よくある質問として、「これからは難問が解けるようにならないといけないですか？」と聞かれますが、難問というものは対策しようと思って出来るものではなく、どのような難問でも 5 点の価値しかありませんので、学習期間・試験時間の観点からも非効率です。

したがって、これからの学習方針としては、「得点すべき問題を、計算ミス・勘違い・思い込みなど無く確実に得点できる実力を身に付ける」ということになります。

これを行うには、内容の理解(インプット)と問題演習(アウトプット)がともに十分出来ている必要がありますので、まず、演習コースのテーマ別講義にて、合格に必須となる内容の確認とそれに関する問題演習を一通り実施し、これまでの学習の抜けを補填していただきたいと思います。

ここで、注意点ですが、演習で解けなかった問題は、「解けなかった → 解答解説を見よう」で終わらないでほしいと思います。本試験問題を解くためには、「自ら考え、正答へ導ける力」が必要です。

解答解説を見ればその場では解決はしますが、自分の力として身についたかは少々疑問なので、「解けなかった → 正答番号を確認 → その番号になる理由を考える → 解答解説を見よう」という流れで実施してほしいと思います。これにより、思い込みなどは補正され、単純なミスなどに気付きやすくなり、本試験の得点が安定します。また、自ら考えたことは頭に残りやすいので、あらゆる面で有利になります。

また、演習コースに付属している「問題チェック表」を是非ご利用ください。

問題チェック表は、「いつ、どの問題を実施し、解けたかどうか」を一目で把握できる表になっており、「モチベーション維持,ペースメーカー,得意・苦手分野の自覚」を目的としております。

演習コースの学習期間は最低で半年間ではありますが、受験後はモチベーション維持が難しくなりま

すので、数ヵ月後、停滞気味になりがちです。だらだらと学習するのも無理に学習するのも非効率的です
ので、計画的に学習できるように、また、誰しも解ける問題などは実施しやすいですが、解けない問題は
敬遠しがちなので、この表をうまく使い、定期的に一通りの内容に触れていただきたいと思います。

また、テーマ別講義を実施し、問題を解いた際、解けたか、正答番号確認後の見直しを経て解けたか、
解けなかったか、をメモ書きしてください。これにより、得意分野・苦手分野が浮き出てきますので、本
試験に近づいたら、苦手分野をしっかり学習していただければと思います。

なお、演習問題の実施は、どの問題も 2~3 回で十分です。よく、5 回以上繰り返し実施している方が
いらっしゃいますが、そこまでとなると、人間は問題を考えようではなく、この問題どう解くんだったっ
けと、思い出そうとしてしまい、本試験で使える力が養われなくなり、効果が薄くなります。

長くなりましたが、残り半年、効率的に実力を身に付けられるように、講義動画、問題チェック表など
を是非活用ください。また、質問メールなどでも、内容の質問以外に、学習方法などの相談も OK ですの
で、気軽にご利用ください。

電験三種合格まであともう少しです。最後まで、頑張りましょう！

●実力テストの復習方法について（TAC 電験講座講師 石田）

1.4 科目完全合格コース・単科生の方へ

復習って何をしたらいいの？ 正直何でもいいのですが、例えば『教科書やノートを読み返すだけ』と『問題を解いてわからないところを教科書やノートで確認する』では、同じ内容への理解度の深みというのが大きく変わってきます。

問題と教科書の反復は、理解を深めるためには非常に効率的です。ただ、教科書のすべての内容に対応した過去問があるわけではありません。また、教科書と過去問の間には大きな差があり、初めはなかなか解けません。

そこで、ミニテストやトレーニング、実力テストなどを活用します。例外も多いのですが、だいたいのレベル感としては『ミニテスト<トレーニング<実力テスト≒オススメ問題<過去問』ぐらいだと思ってください。

これは私の経験上ですが、ちょっと勉強しようかなと思ったとき、『何をしようかな』これを考えているうちに時間が経ち、やる気もなくなりやらずじまいということが、非常に残念ながらよくあります。試験対策とは、自分に合った勉強法を探すことでもあります。教科書を読んでみる。公式をまとめてみる。まとめノートを作ってみる。問題を解いてみる。初めは何でもいいので、『今日何をしようかな』これを先に決めておく。すると、机に向かったとき、スムーズに勉強を始められる（気が）します。

頑張ってください。

●実力テストの復習方法について（TAC 電験講座講師 入江）

1.要点速修コース・単科生の方へ

実力テストの受験お疲れ様でした。実力テストは、今まで学習した全範囲の中で、必ず押さえてほしい基本内容を網羅したものとなっています。その目的は、「合格に必須となる内容の基本が身についているか」、「基本問題を確実に得点できるか」を確認することです。

これまで多くの専門知識を学んできましたが、電験三種レベルの試験では、学んだことがただそのまま出題されることは少なく、特に計算問題は、公式や原理を使いこなせるかが重要になります。なので、今後本試験問題を解くためには、「今まで学んだ内容(インプット)を問題回答(アウトプット)へ繋げられるか」、がポイントとなり、今回の実力テストがその第1歩となります。

電験三種で学ぶ内容は普段考えることの無い新しい概念が多く、知識が定着するのには多少の時間が必要となり、習ってすぐは解けないことが多いので、現時点での目標点は60点で十分ですが、最終的には100点をとれるよう、繰り返し解き、文字通り実力を養ってほしいと思います。

また、どの問題も解くだけでそのテーマの復習となるように作成しておりますので、全体の復習として、さらには、膨大な学習内容の中からご自身の弱点・苦手分野のあぶり出しとしても、活用いただければと思います。

ちなみに、苦手分野によって復習方法は変わります。例えば、知識問題で失点が多いのであれば、テキストの読み返し、実力テストの時間が足りないのであれば、計算速度や問題の読み込み速度を向上するため過去問題を解くなど、様々な方法が考えられますので、効率よく学習を進められるよう、ご一考ください。

今後、過去問題を解き、様々な問題への対応力を磨く練習の時期となります。これからが本番になりますので、焦らず計画的に、継続して頑張りましょう！

2.演習コース・単科生の方へ

実力テストの受験お疲れ様でした。実力テストは、今まで学習した全範囲の中で、必ず押さえてほしい基本内容を網羅したものになっています。その目的は、「合格に必須となる内容の基本が身についているか」、「基本問題を確実に得点できるか」を確認することです。

本試験後、自分の回答を見ると、難しい問題が解けなかったという点が目立ちますが、それ以上に、解けたと思った問題をケアレスミスで失点しているということがよくあります。電験三種は難問を解く試験ではなく、基本問題をミス・勘違いなく確実に解くことができるかを問う試験ですので、今回の実力テストは、その名の通り、合格に必要な基本事項が理解できているか、計算速度は十分か、計算ミス・勘違いなく、確実に得点できているかなどの「本試験を合格するための実力」を問うテストとなっています。

したがって、実力テストの目標点は100点としています。本試験でケアレスミスなどで失点がないよう、気を付けて回答するように心がけましょう。また、今回の実力テストをふまえて、何が足りていないかを自覚し、今後の糧としたり、内容の振り返りとしても活用いただければと思います。

今後、本試験に向けて仕上げていく時期になります。焦らず一つずつ着実に学習を進め、電験三種合格を勝ち取りましょう！

●4 科目完全合格コース／要点速修コース／各単科生の方へ

石田講師より

年末年始でとまった時間がとれる方は、まず『全体の内容』や『合格へ至る道のり』について、
広く考える時間をとってみてください。

苦手な範囲や忘れていた範囲はどこか、配点の大小、合格点を取るためには何をすべきか、
色々あると思いますが、学習の優先順位や勉強したい内容を決めておくと、
迷わず進むことができるのではないかなと思います。

また、休みだからといって必ずしも時間が取れるわけではないと思います。無理のない計画を立て、
勉強を始めやすい環境を整えることで、勉強に対するハードルを下げることも大切です。

私はよく、勉強ができなくなることを『勉強に戻ってこれなくなる』と表現します。

何日かゴロゴロしてしまい（やらないとやらないと）の気持ちが強くなると、勉強へのハードル
が極端に上がってしまい、拒否反応を起こしてしまうようなことがあります。

なので、やる日は『最低でも 30 分はやる』と決め、やらない日はやらないと決めてしまえば気
持ちが楽になります。

せっかくのお休みなので、メリハリをつけて、上手に勉強時間を見つけられるといいなと思いま
す。

●演習コース／単科生の方へ

入江講師より

年末年始は長いようであつという間に終わります。

次こそは受かる！という気持ちは大切ですが、あれもこれもやろうとしても現実問題その計画を全て実行するのは難しいものです。

また、設定した課題が出来なかったとなると気落ちし、焦りが生じ、今後の学習に不安が残るといふ悪循環になりかねないです。

したがって、年末年始のような短い休暇には、やることを絞って確実に今後のためになることのみをすべきです。

具体的に何をするかですが、個人的には基礎固めをおススメします。

くどいように思われるかもしれませんが、電験三種レベルの試験では、問題を解くことも重要ですが、それ以上に基礎を明確に理解できているかが重要です。

今後直前答練や模試といった新規問題によるアウトプットをメインで実施するなかで、ただ問題を解くだけでなく、問題をふまえてさらに内容の理解や問題の解き方・考え方を深めていくことになります。

その際、そもそもの基礎の理解があやふやだと解答解説を見てもわからず混乱し、とても不安になるものです。

なので、これを最後の機会として、例えばまとめを作るなどの基礎固めをしっかりと完了しておきましょう。

電験三種は、やるべきことを確実にこなせば必ず合格できます。

焦らずに「完璧を追い求めない」ということを念頭に置いて学習を進めてください。

(本試験に対する重要度をつけることが重要です。)